

## 🌱 なぜ、いま「学び方のふり返し」なのか？

授業の最後、こんなふうに思ったことはありませんか？

- 「やった内容は覚えているけど、どうやって学んだかは残ってない...」
- 「あの子、活動はしてたけど、自分の学び方を振り返ってるかな...」

そんなときに思い出したいのがこの言葉：

「どう教えたかから、何を学んだかへ」(堀田龍也先生)

子どもたちが「できた／できなかった」だけでなく、  
“どう学んだか”を振り返る時間があると、  
次の行動が変わります。つまり、「学びが自分のもの」になるのです。

指導要領改定、情報活用能力、国の方針を示している方のお一人、田村学先生、堀田龍也先生というお名前は聞いたことがある方も多いかと思います。

こちらの動画【特別講座】【テーマ】これからのGIGA!!!教科の学びをどう深める!?

(文部科学省・リーディングDXスクール事業)ぜひ、見て欲しいのですが、ポイント整理と、特徴的な言葉の抜粋をしています。お時間見つけてぜひご確認ください👉



[https://youtu.be/fdEDeiny1x8?si=DFGCYUpHDqXB\\_kzl](https://youtu.be/fdEDeiny1x8?si=DFGCYUpHDqXB_kzl)

## 🎯 動画の要点整理

### 1. 「どう教えたかではなく、どう学んだか」の重視

- 学習者の視点に立つ教育改革  
堀田先生は、「教える」ことに重きを置くのではなく、子どもたちが主体的に「どう学んだか」を可視化し、

振り返ることが学びの深化につながると強調。

- クラウド活用で学習プロセスを可視化  
デジタルツールやクラウド環境を使って、一人ひとりの学びの過程や思考の履歴を記録し、分析できるようにすることで、単なる結果よりもプロセス重視の評価が可能になる。

## 2. GIGAスクール構想と授業の転換

- ICT環境の最大活用  
1人1台端末の環境を活かし、子どもたちが自分で調べ、考える時間を増やす「探究型・協働型」の授業スタイルへ移行する重要性を提言。
- 教師の役割のシフト  
教師は知識伝達者からファシリテーターへと役割を変え、「学びを促す関わり」が求められる。

## 3. データを活かした振り返りの設計

- 学びの振り返りを定期的を実施  
タイムログや成果物などの記録をもとに、子ども自身が振り返る仕組みを整えることで、「どう学んだか」の質を高める。
- 共有と協働の視点  
クラス全体で学びのプロセスを共有することで、他者の思考や方法を知り、自らの学び方の幅を広げる。

## 4. 教育DXがもたらす学校文化の進化

- 校務の効率化と教師の余白確保  
DXの活用により校務の負担を軽減し、教師が「学びをデザインする時間」を持てるよう支援する。
- 学びの土台をつくる  
デジタル基盤がしっかり整備されていることが、探究型の学びや主体的学習を支える鍵に。

### 「どう教えたかではなく、どう学んだか」について

観点	内容
視点の転換	教える方から学ぶ方へ—評価の焦点も「学習者のプロセス」に移す
可視化の力	クラウドに学びの記録を残すことで“プロセス”が証明され、振り返りにつながる

振り返り設計	学び方を自分で評価・修正できる流れを意図的に組み込む
教師のガイド	教師は背後から見守り、必要に応じて問いを投げかける役にシフト

この言葉はGIGAスクール時代にふさわしい新しい教育の核心を突いており、「教師がどのように教えたか」ではなく、「子どもがどう学んだか」を中心に据えるという教育観の根本的な再構築を示しています。

私が一番心に残ったのは、「結局何を学んだのか、何で学んだかが自覚されていない」という言葉で、やはりここからも、4年生の授業でもされていました「学び方のふりかえり」がキーポイントだなと感じたわけです。

### 取り組みやすい振り返り実践例(明日からすぐ使える！)

学年	活用の場面	振り返りの例	先生の声かけ例
1年	授業の終わり5分	「○○ができてうれしかった」「くふうしたこと」	「どんなところがよかったかな？」「じぶんでがんばったところは？」
3年	ノートの最後に	「今日のやり方、うまくいった？」「工夫したこと」「人から学んだこと」	「今日は“どうやって”わかったのか、書いてみよう」
5年	Googleフォーム or ロイロ共有ノート	「資料の読み方で、気をつけたこと」「考え方が変わったこと」	「何ができるようになった？どこで気づいた？」

### テストや単元のラスト

# 【算数】学びの「たからばこ」

日にち	単元	単元を学び終えての振り返り→テストへ	テストを終えての振り返り→次の単元、他の学びへ
5月20日	2時こくと時間	教科書33のところが、まだ不安です。たしかめようの@番のペンきょうを、わかるようにしたいです。	7時25分から8時10分までの時間を考える問題がよくわからなかった。スキマ時間には、時計の動画を見て、わかるようにしたい。

①単元を学び終えた後  
②テストを終えた後

2つの場面で、学びを振り返る時間をとります。

じっくり考えて、頭の中にある言葉を書き出しましょう。

自分のレベルアップのために。

**振り返りのヒント**

- ・どんなところが、わかっていないかな？（そこが勉強チャンス）
- ・どんな行動をすれば、良い勉強ができそうかな？
- ・自分は、どんな力が付いたかな？どんなことができたようになったかな？
- ・どんなことをがんばっていきたいかな？

## 💡 先生たちのつぶやきから始めよう(発信の工夫)

クラスルームや教室に貼れる一言カードなどで、ふり返りの大切さをゆるく、でも響く形で発信していくのがおすすめです。

### 🌟 発信例(クラスの子どもたちに)

- 「ふり返りって、実は“次の行動のカギ”になる」
- 「今日の“わかった”より、“どうやってわかった”が大事かも」
- 「書いて終わりじゃなく、話す・比べる・変えるためのふり返りを」

### 📝 日常発信例(教職員・保護者に)

- 1人の児童のふり返しコメントをchatで共有:「これ、すごくいい視点だと思いませんか？」写真を添えて
- 学級便りのコーナーに「今月のふり返し名言」を載せる
- 「ふり返しは学びを積み重ねる”武器”」として学年会で話題化

## 最後に伝えたいこと

ふり返しは、特別なことをする必要はありません。  
大切なのは、「子どもが自分の学びを言葉にする時間」を少しでもつくること。

- ✨「何ができたか」ではなく「どう学んだか」を聞いてみてください。
- ✨それは、学びを“自分のもの”にする小さな一歩になります。

次回の6月で、それぞれのふりかえり実践を出し合えるよう、日々のふりかえりをしていきましょう！